

四つ橋筋の魅力再発見

行俊 良雄

【目的】

四つ橋筋は近代大阪の道路としての歴史はいちばん古い。1908年（明治41年）に市電の軌道のための道路として開通したことがはじまりである。開通から100年以上経ち、大正、昭和、平成の各時代に積み上げられた歴史の中には興味深い話が多くある。昨年は、沿道の肥後橋の大同生命がNHKテレビのドラマ「あさが来た」で盛り上がった。今年は、4月に中之島にフェスティバルタワーウェストが竣工する。四年前にできた建物とともに東西のツインタワーからなる四つ橋筋のランドマークともいえる景観ができていく。

このように、近年、話題が増えつつある道であるが、四つ橋筋について南北に縦貫するかたちで書かれたガイドブックはあまりなく、また街歩きのコース設定も見られない。そこで本研究は四つ橋筋沿道の各地域の歴史の中の興味深い話を南北の軸でまとめ直し、街歩き用のマップを作ることを目的とする。

【内容】

四つ橋筋は南北4kmの間に堂島、中之島、靱、新町、堀江など地域を通る。各地域には街の歴史をまとめた資料があるが、その街は東西に広がっていて四つ橋筋の変遷を連続して見ることはできない。また沿道の会社にも社史などを残している会社は多いが、街との関連についてはあまり触れられていない。本研究では、四つ橋筋とその沿道の歴史を調べる中で、ゆかりのある人物、会社、建物などについて話題の視点を少し変えて見たり、くくりを組み替えて四つ橋筋を軸にまとめ直してみる。具体的には、

- ①四つ橋筋が道として成立する過程と現在に至るまでの交通機関の変遷。
 - ②四つ橋筋沿道にある「川（堀）」「橋」などに名を残す地名の場所、景観の調査。
 - ③四つ橋筋の中之島以北のメディアについての変遷とゆかりのある人物の調査。
 - ④上に掲げた事項以外の、沿道に点在する、石碑やモニュメントについての調査。
- 以上の事項の中から、四つ橋筋を軸にしたまち歩き用マップに落とし込んだ。

【結果（今後の考察、具体的なモデルコースや観光商品の提案を含む）】

調査対象が広範囲にわたり、対象となる歴史的な事象や存在した場所を一つのマップに落とし込むには要素の数が多すぎるので、いくつかの分野に分けてコースを設定した。本文では①交通機関の変遷②新聞社、放送局とゆかりの人物について扱い、別添資料では①総合的なコース②建築物（現存となくなったもの）③川と橋のあった場所を歩くコースを設定した。大阪人にとっては大阪をより深く知るコースの設定なので、意外な発見があるかもしれない。

(1) 四つ橋筋が道として成立する過程と現在に至るまでの交通機関の変遷

1874年(明治7年)官営鉄道が開通時の大阪駅は現在地より西に約200mの場所にあった。中之島から北は現在の四つ橋筋が「ステーション道」と呼ばれる道であった。一方、土佐堀より南は西横堀沿いの道が道頓堀まで直通できたが西船場、新町、堀江を貫く道(現在の四つ橋筋の道筋)はなかった。1889年(明治22年)大阪鉄道が湊町駅(現JR難波駅)を開設した。この駅と大阪駅を結ぶために計画されたのが市電南北線で、渡辺橋からほぼ直線で南下した。電車の軌道を敷くために開かれた道が現在の四つ橋筋の前身であり、その後拡幅された。

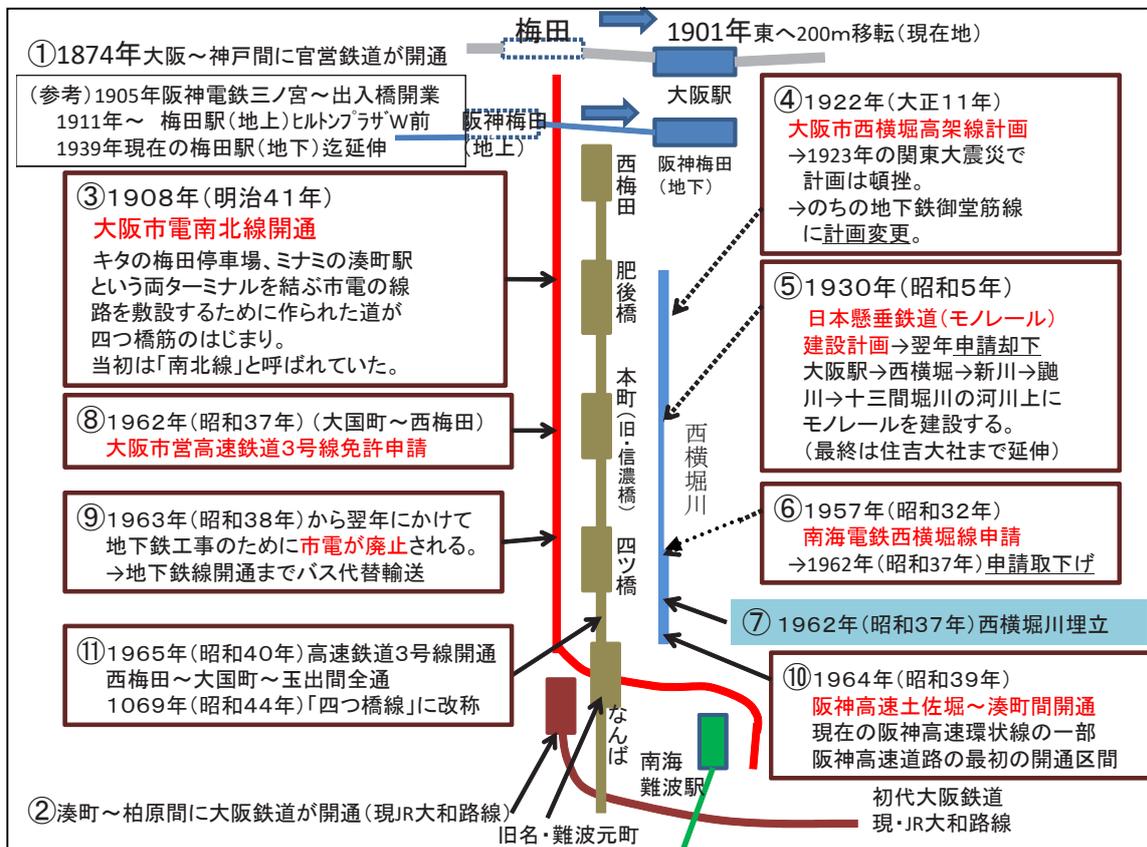
大正時代末には市電より速い西横堀高架線が計画されたが、関東大震災の影響により安全性に疑問がもたれ地下化されることになり、現在の御堂筋線となった。その他いくつかの計画があったが、西横堀川は埋められて高速道路に、市電は廃止され地下鉄3号線になった。なお、「四つ橋筋」の愛称は1969年(昭和44年)公募によって決められ、下を走る地下鉄3号線は「四つ橋線」と命名された。

四つ橋筋周辺の交通に関連する記念碑



四つ橋筋周辺の交通機関の変遷

(○内の番号は時間の流れの順番)



(2) 川と橋の変遷—埋められた川、なくなった橋

かつて大阪駅～湊町駅までの間に10か所の橋が架かっていた。多くの川は西横堀川から分流していたものであるが、そのうち7つの河川が埋められ、架かっていた橋もなくなった。橋のあった場所には親柱がモニュメントとして残されているところがある。現在の景観の中で川と橋がどのように存在していたかを別添資料にまとめた。

注意すべきは桜橋、信濃橋、四ツ橋など交差点に名前を残している橋が、実際の位置とかなり違うということである。(別添資料参照)

(3) 四つ橋筋北側(中之島～桜橋)にかけて新聞社、放送局が多くあった。

四つ橋筋の特徴として大正末～昭和時代にかけてたいへん発信力の強い街であったということがあげられる。大阪発祥の新聞社は中之島～桜橋に多くあった。また、大阪の民間放送の多くはこの場所の周辺で生れた。しかし、現在は朝日新聞だけで多くの会社は他の地域に移転してしまった。昭和20年代～30年代にこの地域で勤めていた人は後年、著名な小説家、評論家になった人が多い。(下の地図を参照)

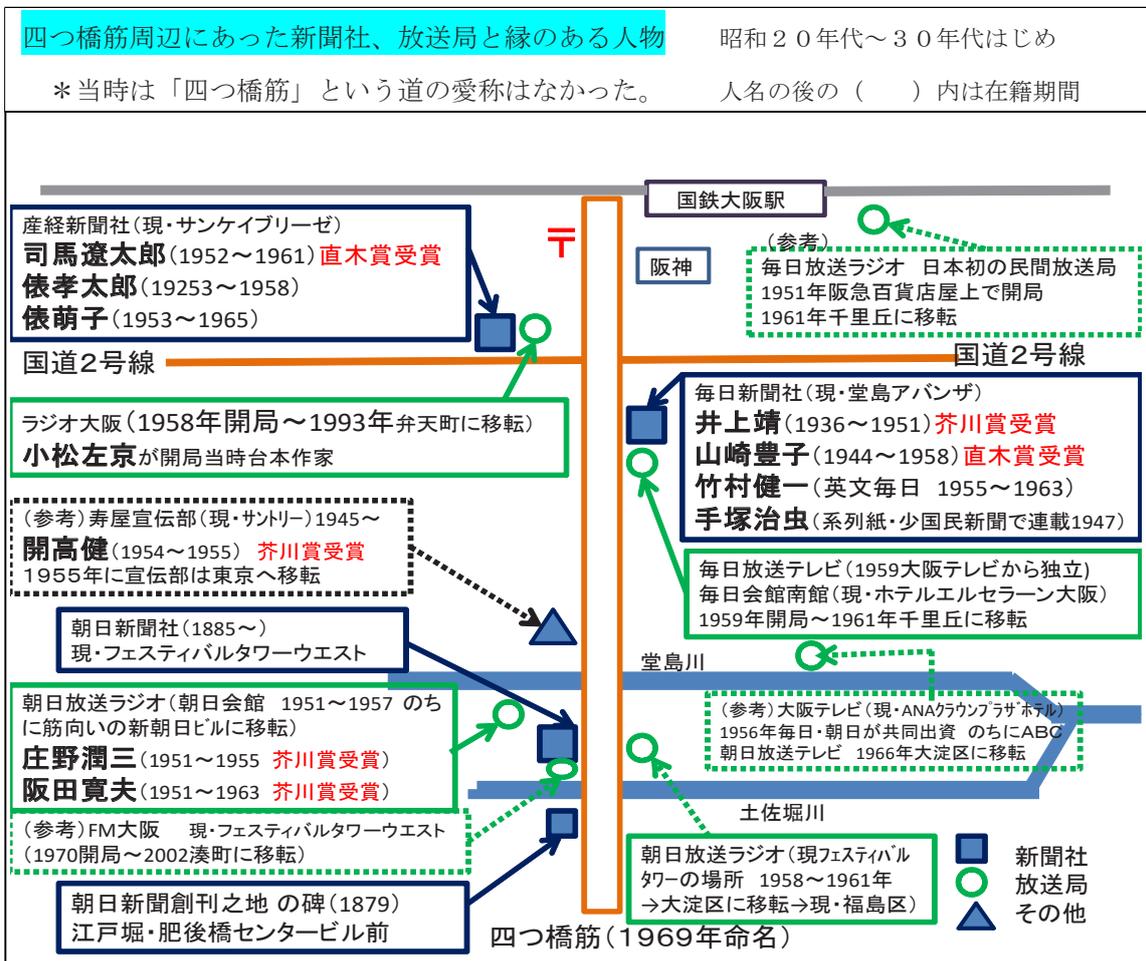
四つ橋筋周辺の新聞社に関連する記念碑



←肥後橋センタービル前路にある「朝日新聞創業之地」の碑



←堂島アバンザ前
毎日新聞社跡のモニュメント。旧社屋の玄関を残している。



(4) その他 別添資料のマップに記載しているがポイントを次にあげる。

1) 肥後橋 大同生命ビル



2016年(平成28年)にNHK連続テレビ小説「あさが来た」の舞台になった大同生命ビル前に新たに「加島屋跡」の碑が建立された。地下には敷地内にあった井戸が保存されている。ヴォーリズが設計した旧ビルの部材は玄関前の装飾物に使われている。

2) 靱公園周辺



靱公園は、戦後進駐軍が飛行場にしていた場所を公園にした。北側の大阪科学技術館は五代友厚邸跡。館内にゆかりの展示がある。

3) 京町堀川の痕跡



靱公園の北側(大阪科学技術館の北西)に東西約40mにわたり、京町堀川の右岸の痕跡がある。

4) 信濃橋交差点



信濃橋洋画研究所は1924年(大正13年)設立。所内にあった画材店「マロニエ」は現在も天王寺美術館内で営業している。

5) せともの町～火防陶器神社



中央大通りと四つ橋筋交差点東南には最盛期には陶器商が200軒存あった。今、坐摩神社に隣接する火防陶器神社はかつて、現在の信濃橋交差点南西にあったが、1907(明治40)年、市電施設時に敷地が買収され現在地に移転。戦災を受け、戦後一時期、西横堀沿いに仮社殿があった。

(5) まとめ

上記の内容以外にも四つ橋筋の沿道には興味深い話題が満載である。別添の資料にも3つのコースを設定した。①沿道の歴史を訪ねるコース②近代建築となくなった建物の場所を訪ねるコース③川と橋の跡を訪ねるコースを設定した。

現存する近代建築以外は「～の跡」という場合は石碑さえないものが多い。事前の知識と想像力を活かして、それぞれの場所を特定するまち歩きもおもしろい。